

環境にやさしい社会の実現を

～平成15年度登別市環境セミナー～

3月27日(土)、市民会館で『平成15年度登別市環境セミナー』が開かれ、約120人の市民が参加しました。

このセミナーは、平成13年度に策定された登別市環境基本計画に基づき、環境教育を推進し、市民のみなさんにもっと環境への意識を高めてもらおうと、市と登別市環境保全市民会議が初めて開催したものです。

はじめに、公募していた登別市環境基本計画推進シンボルマークの表彰式が行われ、『環境に負担をかけない社会』を緑の葉と握手をしている人の手で表現したデザインが評価され、最優秀賞としてシンボルマークに決まった松塚亜理沙さん（日本工学院北海道専門学校マルチメディア科2年）と、優秀賞となった杉本朱里さん（同）に賞状と記念品が贈られました。

続いて行われたセミナーでは、自然愛好グループ・ヨシキリの会の伴野美江さん（新川町）をはじめ、4人の講師がスライドでの説明を交えて講演しました。『台所から始める地球温暖化防止』の講師の岡崎朱実さん（北海道地球温暖化防止活動推進員）は、日常生活の中でできる取り組みを紹介。省エネルギー型家電製品の使用により温暖化の原因・二酸化炭素の排出を抑制できることや、循環型社会への転換を図るため、資源として再利用できる製品を積極的に利用することなどを会場に詰めかけた市民に呼びかけていました。



▲登別市環境基本計画推進シンボルマーク『環境に負担をかけない社会』



▲中学生と交流するトワング高校の生徒たち（幌別中学校）

市民と交流しながら、日本の言葉や文化を学習

～トワング高校日本語クラス実地見聞～

4月2日(金)から14日(水)まで、登別市の初代英語指導助手（平成2～4年）で、登別市ふるさと大使（通称『鬼大使』）のピーター・ヘンティさんが米国ペンシルバニア州トワング高校の日本語クラスの生徒など10人を引率して登別を訪れました。

ヘンティさんは、現在、同校で日本語を教えており、日本の言葉や文化の学習を目的に来日。教え子たちは、ホームステイや座禅、茶道、そば打ちの体験、中学校訪問、施設見学などを通し、市民と交流しながら、しっかりと日本の言葉や文化、習慣などを学んでいました。

交通事故に注意して、楽しい学校生活を

～新入学児童に対する交通安全啓発運動～

4月7日(水)、幌別東小学校で『新入学児童に対する交通安全啓発運動』が行われました。

この運動は、小学校の入学式に合わせ、新1年生が交通事故に遭わないよう交通安全の啓発をすることを目的に行われているもので、各小学校持ち回りで毎年開催されています。

今年の会場となった幌別東小学校の玄関前では、市や室蘭警察署、登別市交通安全協会などから約70人が啓発運動に参加。午前9時過ぎから真新しいランドセルを背負った新1年生33人が保護者と一緒に登校すると、参加者は交通安全の呼びかけや記念の学用品・パンフレットが入った封筒を手渡し、受け取った新1年生は思わぬプレゼントに笑顔を見せていました。

今年度、市内各小学校の新1年生は合わせて432人（昨年度は436人）で、少子化の影響により、年々減少しています。

